

平成21年 2月

松岡さおり 学位論文審査要旨

主 査 井 藤 久 雄
副主査 原 田 省
同 汐 田 剛 史

主論文

Involvement of thioredoxin-binding protein 2 in the antitumor activity of CD437

(CD437の抗腫瘍効果におけるthioredoxin-binding protein 2 の関与)

(著者：松岡さおり、土谷博之、坂部友彦、渡邊祐実、星川淑子、栗政明弘 板持広明、
原田省、寺川直樹、増谷弘、淀井淳司、汐田剛史)

平成20年 Cancer Science 99巻 2485頁～2490頁

審査結果の要旨

本研究はヒト卵巣癌細胞を用いて、合成レチノイドCD437によるアポトーシス誘導作用について、CD437がTBP2の顕著な発現亢進を示すことに着目し、その分子機序について検討したものである。その結果、CD437によるTBP2の誘導後に、TBP2とTRXの結合と、さらにTRXからASK1の解離が観察された。これと一致して、ASK1並びにその下流の分子c-Jun N-terminal kinase (JNK)の活性化を認めた。また、TBP2の発現誘導を抑制すると、癌細胞のCD437に対する感受性は有意に低下したことから、合成レチノイドCD437のアポトーシス誘導機序にTBP2が重要な役割を果たしていることが示唆された。本論文の内容は、腫瘍学の研究分野で、合成レチノイドによる抗腫瘍作用の新規の分子機序を明らかにし、学術水準を明らかに高めたものと認める。